

母と子のにわ

—利用者みなさまと母子医療センターをつなぐ—

- 1 地域における母子医療センター集中治療科の役割
- 2 新部長を紹介します
- 3 院内学級に新しい教室ができました／多胎フェスタを開催しました／産科医療功労者厚生労働大臣表彰
- 4 センタークリスマス会を開催しました
応援メッセージをありがとうございました
ファミリーハウス利用料の改定



地域における母子医療センター集中治療科の役割

小児集中治療医（PICU 医）、小児集中治療室（PICU）って？

生命の危機に瀕した重篤な小児を、できるだけ短期間で、後遺症なく救命することが、小児集中治療医の役割です。2013 年の幼児死亡率の国際比較統計を見ると、日本は出生 1000 人あたりの死亡が 2.9 人であり、その低さは世界でもトップクラスの成績です。でも、実はそういう患者さんを集めて管理する場所である小児専用の集中治療室（PICU）の数も、そこで働く PICU 医の数も日本では圧倒的に不足しています。日本の低い幼児死亡率は、小児科の一般病棟や、成人の集中治療室や救命救急センターの片隅で、ときどきしか重篤小児に遭遇しない小児科医や、麻酔科医、救急医などが寝ずの番をすることで支えられている数値なのです。外国の文献によれば、重篤小児を PICU に集中させて管理することで、予後が改善することが報告されていますから、今後 PICU を十分に配備すれば日本の幼児死亡率をさらに低下させることができると考えられます。

施設紹介

2014 年の 5 月に完成した当センターの新 PICU 病棟は全部で 12 床あり、病床部面積も平均 20 m² / 床を超える、西日本最大級の PICU です(写真)。ベッドサイドでご家族が患者さんにゆっくり寄り添うのに十分なスペースを確保しました。また、PICU 専属・専従の医師は 12 名、看護師は 48 名おり、24 時間 365 日、患者さんのベッドサイドで治療やケアを行っています。2015 年 1 年間で当 PICU に入室された患者さんは 607 名で、そのうちの 63%が人工呼吸を必要とした患者さんでした。また、PICU に入室された患者さんの ICU 死亡率は 1.5%で、これは入室時に予測される ICU 死亡率（2.9%）よりも低い数字となっています。

地域における母子医療センター集中治療科の役割

大阪では、小児救急体制はすでに十分に確立されていますが、重篤患者を受け入れることが可能な施設は限られています。そこで、われわれは、死の危機に直面している患者さん、地域の小児科の先生方が「これはまずい」と感じた患者さんを、新しくできた PICU にできるだけ多く受け入れたいと思っています。重篤患者を既存の 3 次救急施設に加え、当 PICU に収容することができれば、救急施設や小児科病棟の収容力を維持でき、またマンパワーがそこに割かれることを防ぎ、間接的にわれわれも救急医療に貢献できると考えています。実際、昨年の救急搬送 PICU 入室症例（他院からの搬送と、救急車で来院）は合計 92 名となり、毎年徐々に増加してきています。今後も、当センターでしか治療することのできないような小児特有の疾患などの患者さんをこれまでどおり PICU に収容しつつ、重篤な救急患者さんの受入れも積極的に行っていきたいと思っています。



(文責 集中治療科 主任部長 竹内 宗之)

新部長 を 紹 介 し ま す



泌尿器科 部長
松本 富美 先生

2015年4月1日に泌尿器科部長に就任しました。当科では、小児の腎・尿路系疾患ならびに生殖器系疾患に対して幅広い活動を行っています。腎・尿路系の代表的なものは、水腎症、多嚢腎などの先天性疾患で、出生前に胎児超音波検査でみつかるとも少なくありません。産科、新生児科と協力して出生前のお子さまに対しても積極的に診療に取り組んでいます。生殖器系の主なものは、停留精巣や尿道下裂などで、乳児期より積極的に手術を行っていますが、陰嚢水腫や包茎といった自然治癒が大いに期待できる疾患に関してはむやみに手術を勧めず、適応を慎重に判断しています。また、性分化疾患（DSD）に対しては、本邦では数少ない他職種から成るチーム医療を推進し、細やかな対応に努めています。

1991年の小児部門のフルオープン以来部長を務められた島田先生からバトンを引き継ぐこととなりました。これまで同様全力疾走で頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2015年7月に着任いたしました。以前に在籍した期間を合わせますと通算で母子医療センター8年目になります。1年3ヶ月ぶりの母子医療センターで、ちびっこいっばいのアトリウムとモコニャンに癒されています。当科で診ている主な疾患は気道疾患と難聴です。気道疾患としては、扁桃・アデノイド肥大による睡眠時無呼吸症候群（子どもなのにおじさんみたいなイビキをかいていたら可能性大です）が多く、小児難聴としては先天性のものや中耳炎に伴うものなどがあります。疾患によっては手術で良くなる場合も多くあります（睡眠時無呼吸症候群はほぼすべてが良くなります）。

当センターは、小児の手術を行うには、症例数、設備、人員の面からうってつけの病院です。また、小児の嫌がる処置は最小限になるように努めたいと思っています。かかりやすく、信頼される耳鼻科を目指します。よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科 部長
廣瀬 正幸 先生



整形外科 主任部長
樋口 周久 先生

2015年7月より、整形外科主任部長として着任しました樋口周久と申します。前職場は大阪大学医学部整形外科で、小児の下肢疾患を中心に、大人の下肢変形や難治性骨折などの診療を行ってきました。同時に骨や成長軟骨の再生などの基礎研究も行ってきました。今後はこれまでの母子医療センター整形外科の伝統を引き継ぎ、小児整形外科疾患を治療していくことに加え、病態の解明や新しい治療法の開発など、大学での研究経験とつながりを利用して新しい事ができればと考えております。

小児整形外科疾患は一般の整形外科医にとっても難解と思われるような分野です。難解な小児整形外科疾患を、子どもでも分かるような説明で理解していただき、治療を行っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

院内学級に新しい教室ができました



母子保健総合医療センター分教室は、大阪府立羽曳野支援学校の分教室の1つで、当センターに入院している児童・生徒（小1～中3）さんが毎日がんばって勉強をしています。この度、当センター地下1階に新しい教室ができ、2学期から新しい教室での授業が始まりました。

もし、お子さんが病気で入院されましたら、ぜひ、分教室の教育をご活用ください。手続きについては、病棟の看護師長にお問い合わせください。

多胎フェスタ 2015 を開催しました



多胎フェスタは、当センターで出生した多胎児とその家族を対象としたイベントで、母性棟の多胎ワーキンググループが毎年秋に主催しています。今年は10月24日（土）に総合受付のスペースを利用して開催しました。

地域の多胎育児サークル（和泉市：さくらんぼ、堺市：ツインエンジェル、岸和田市：ぐりぐらくらぶ）を中心としたバザーは多くの参加者で賑わいました。そのほか、育MENコーナー、DVD「うまれる」上映会、モコニャンとの撮影会、保健師・助産師・おおさか多胎ネットとの相談コーナーなど各ブースおおいに盛り上がりました。

光田産科主任部長が、産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。





センタークリスマス会を開催しました



2015年12月18日(金)に恒例のセンタークリスマス会を開催しました。阪神タイガースへの復帰が決まった藤川球児選手やNHK、Eテレ「フックブックロー」に出演中の谷本賢一郎さんが出演してくださいました。

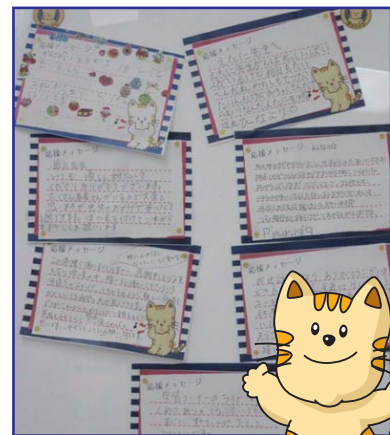
会場は、患者さんやそのご家族の笑顔でいっぱいになりました。



応援メッセージありがとうございました

当センターでは、10月から職員への応援メッセージをいただく取り組みを始めました。これまでも、医師、看護師、スタッフ全員、施設に対しての応援、感謝のメッセージをたくさんいただきました。メッセージはいただいたスタッフに伝えるとともに、1階総合案内後ろの掲示板にも掲示させていただいています。

皆さんからいただいた応援に応えられるよう職員一同がんばります。今後もよろしくお願いいたします。



ファミリーハウス 利用料の改定

ファミリーハウスをご利用のみなさまへのお知らせです。2016年4月1日宿泊分より、利用料を下記の通り改定させていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

1人1泊 改定前：1,000円 → 改定後：1,500円

お問合せ・お申込み：ファミリーハウス事務局 電話 0725-56-2325 / 事務局 総務・人事グループ 電話 0725-56-1220

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域の保健医療機関と連携して母子保健医療を推進します
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

電話・0725-56-1220

FAX・0725-56-5682

<http://www.mch.pref.osaka.jp/>